

Ⅲ 愉しむ「都」をつくる

～県民が安心して快適に暮らし続けられる
奈良をつくる～

6. 「安全安心な地域」づくり

- (20) 大規模広域防災拠点の整備
- (21) 消防学校教育の充実、県内消防組織への支援
- (22) 大和川直轄遊水地と流域内水遊水地の整備
- (23) 土砂災害対策の推進
- (24) 日本一災害に強い奈良県を目指す対策

7. 「きれいな奈良県」づくり

- (25) なら四季彩の庭づくりの推進
- (26) 馬見丘陵公園を誇らしい花の公園に整備
- (27) きれいな川づくり
- (28) 道路の無電柱化

8. 暮らしやすいまちづくり

- (29) 土地の適正な管理、合理的な利用及びより効果的な利用の実現
- (30) 奈良県のすまい方改善
- (31) 県内の交通サービスの確保と利便向上
- (32) 自治会等との連携協力強化

9. 地域で子どもを健やかに育てる

- (33) 子育てと仕事を普通に両立できる社会の実現
- (34) 就学前児童のはぐくみ
- (35) 子どもの通学通園路の安全確保

10. 女性活躍の推進

- (36) 希望がかなうジェンダーフリーな社会の実現

6. 「安全安心な地域」づくり

(20) 大規模広域防災拠点の整備

ここまで良くなってきました

近い将来、「南海トラフ地震」など大規模災害の発生が予想されています。本県だけでなく紀伊半島エリアを広くカバーする防災拠点が無いため、「大規模広域防災拠点」の整備が必要です。

- 導入すべき機能、施設規模などを取りまとめた「奈良県大規模広域防災拠点整備基本計画」を策定(R3年6月)
- I期・II期の整備に必要なゴルフ場の土地の売買契約を締結
- 本拠点を国の南海トラフ地震における応急対策活動に関する計画に位置付け(R4年6月)
- 災害時に防災拠点としての効果を発揮するため、消防など関係機関と防災拠点の運用に関する会議を実施

もっと良くするために

大規模広域防災拠点(2,000m級滑走路付)の早期整備に向けた取組を進めます。

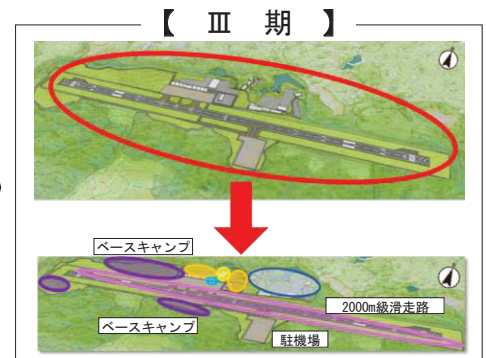
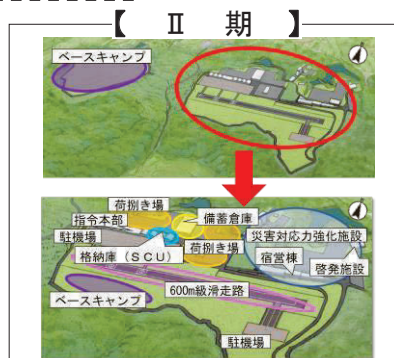
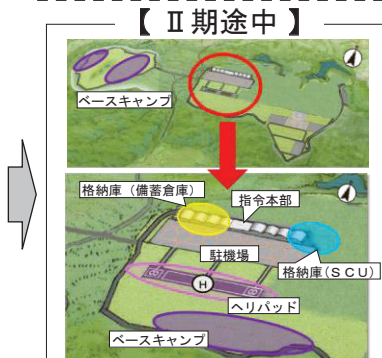
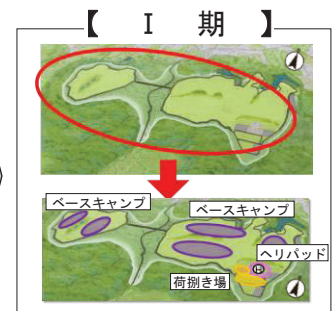
- 用地調査及び交渉を進め、拠点整備に必要な工事用道路等の用地を取得
- 現地測量、地質調査及び実施設計等を進め、I期造成工事等に着手
- 2,000m級滑走路の早期設置に向けた検討
- 京奈和自動車道五條西ICから防災拠点を經由して国道168号に接続する道路について、現地測量・地質調査等を実施するとともに、新規事業化に向け都市計画手続きを実施

いつ災害が発生しても防災拠点機能を発揮するよう整備段階に応じた運用の具体化に取り組みます。

- 災害時の応援部隊の活動拠点として活用できるよう受入環境整備を検討
- 災害時に現況から直ちに防災拠点として活用するための必要な環境整備、平常時から関係機関による訓練等を実施

【段階的な整備と運用イメージ】

- ・ 防災拠点としての効果を早期発現するため、I期、II期、III期と段階的に整備
- ・ I期は令和7年度の完成、II期は概ね10年後の完成を目指し整備
- ・ 「現況、I期、II期中途、II期、III期」の5段階に分けて運用を行い、現況から防災機能を発揮



令和5年度予算案 2,634百万円 [債務負担行為 2,000百万円]

(21) 消防学校教育の充実、県内消防組織への支援

ここまで良くなってきました

火災・救助事案における**初動体制**が強化されました。

(例：一般建物火災の場合の出動隊数)

①広域化前(旧消防本部)
3～6隊



②広域化後
7～16隊



奈良県広域消防組合の広域消防通信システム整備に対し補助しました。

システム整備(H28年)後の119番通報から病院が受け入れるまでに要した時間が短縮しました。
H28年(44.6分)→H29年(43.7分)→H30年(42.6分)→R1年(41.5分)



救助訓練



奈良県広域消防組合通信指令センター



救急車出動

もっと良くするために

消防学校における**教育訓練の体系づくり**を進めるなど、**教育訓練を充実**します。

- 消防学校の管理・運営について、広域消防組合への移管を促進
- 消防学校教育訓練充実検討委員会の設置
教育訓練内容の充実を効果的に進めるために、外部有識者による支援体制を整備
- 教育訓練用資機材の整備
- 消防学校の訓練環境等の整備
消防士育成の唯一の機関であることから、訓練環境も含め計画的に整備
- 県内消防本部派遣教官の人的負担
市町村からの派遣教官の人的負担を軽減し、教育訓練の実施に必要な消防学校教官の確保

広域消防組合の**ガバナンスの強化**(業務・管理・財務)を支援します。



消防学校での訓練(救急救助訓練)



消防学校での訓練(ロープ登はん訓練)



消防学校での訓練(放水訓練)

令和5年度予算案 138百万円

(22) 大和川直轄遊水地と流域内水遊水地の整備

ここまで良くなってきました

全国各地で洪水被害が頻繁に発生しています。大和川流域では、平成29年に「大和川流域における総合治水の推進に関する条例」を制定するとともに、これまで遊水地整備や河川改修など「外水対策」と、奈良県平成緊急内水対策など「内水対策」による、流域治水に取り組んできました。

大和川とその支川が、令和3年に全国で初めて特定都市河川に指定され、奈良県平成緊急内水対策事業への国の補助率が引き上げられました(1/3⇒1/2)。

大和川本川

○国は、外水対策として洪水を一時的に貯留する100万^mの直轄遊水地の整備(窪田地区、保田地区で工事中)、大和川・佐保川の改修(藤井地区、長安寺地区)を実施

大和川支川

- H30年5月に奈良県平成緊急内水対策着手
- R3年3月末に田原本町(阪手南地区)に内水対策第1号が完成
- R4年度に3箇所(河合町)で新規事業化し、全18箇所を整備推進

- R4年5月に国、県、流域市町村で構成する大和川流域水害対策協議会において、全国初となる流域水害対策計画を策定



【工事中】流域貯留施設(王寺町)



【工事中】地下貯留施設(大和高田市)



大和川流域水害対策協議会

もっと良くするために

あらゆる関係者の協働による「流域治水」の取組を一層推進し、100年に1度の大雨などにも耐えられることを目標に、洪水対策を進めます。

大和川本川

- 国は直轄遊水地の整備の加速化とともに、大和川・佐保川の改修を推進

大和川支川

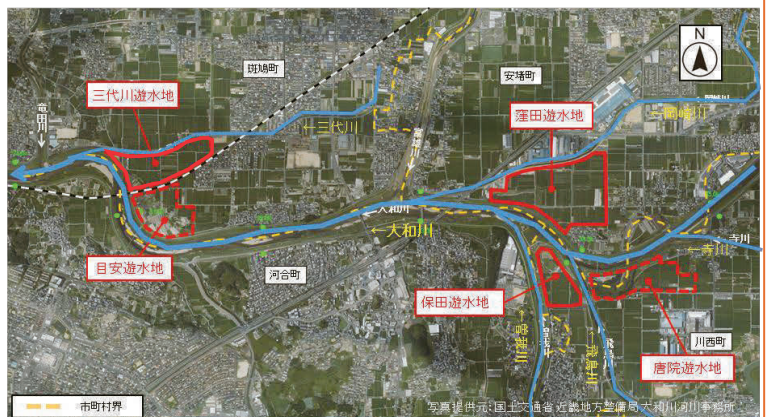
- 市町と県は連携し、内水による床上・床下浸水被害解消を目指して貯留施設を整備する、「奈良県平成緊急内水対策事業」を一層推進(財政支援)
- 県は市町が内水対策に要する費用の実質1/2を負担

事業費 100				
国費 50.0 (1/2)	公共事業等債 45.0 (9/20)			
	県補助 20.0 (1/5)	交付税措置 10.0 (1/10)	一般財源 15.0 (3/20)	一般財源 5.0 (1/20)

- 河道掘削、堤防補強を実施

交付税算入を除いた
市町村の実質負担 20.0% (1/5)

- 流域水害対策計画に基づき、貯留機能保全区域や浸水被害防止区域を指定



○ R5年度事業中箇所 ○ 今後事業予定箇所

令和5年度予算案 2,432百万円

[債務負担行為 628百万円]

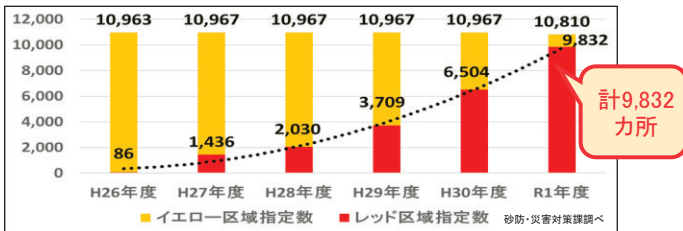
令和4年度2月補正予算案 1,266百万円

(23) 土砂災害対策の推進

ここまで良くなってきました

「奈良県土砂災害対策施設整備計画」に基づき、**施設整備(砂防施設、地すべり対策施設、急傾斜地崩壊対策施設)**を着実に進めてきました。

○イエロー区域(10,810)・レッド区域(9,832)指定をR2年3月に完了



イエロー区域(土砂災害警戒区域)、レッド区域(土砂災害特別警戒区域)指定数

○R3年度までに、レッド区域内に24時間利用の要配慮者施設がある全ての箇所について、施設整備に着手

○土砂災害・防災情報システムによる土砂災害危険度に関する情報の提供

「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」に基づいた**森林の防災機能を重視した施策**を始めています。

○R2年4月に「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」を施行

○条例に基づき、県内の森林を4つ(恒続林、適正人工林、自然林、天然林)に区分し、防災等の森林機能を高度に発揮するよう誘導

○R3年4月に「奈良県森林環境の維持向上及び県産材の利用促進に関する指針」を施行



もっと良くするために

着実なハード・ソフト対策による安全確保とともに、**気候変動やコンパクトなまちづくり等の新たな課題にも取り組みます。**

「奈良県土砂災害対策施設整備計画」に基づく**土砂災害対策**を着実に進めます。

○避難対策

- ・土砂災害警戒情報の高度化、高精細化
- ・土砂災害の危険を示す看板の設置
- ・最新の土地利用を踏まえた土砂災害警戒区域の見直し



避難行動に役立つ看板(王寺町)



避難指示空振り回数の減少による住民避難意識の向上

森林整備やまちづくり等と連携した、新たな課題に取り組みます。

○林木への対策

- ・奈良県フォレスターの市町村派遣により、針広混交林化による防災機能の高い森林への誘導を強化
- ・森林施業の推進
- ・流木対策砂防施設の整備

○まちづくりへの対策

市町村が設定した立地適正化計画を踏まえた土砂災害対策の検討

適正な森林管理の実施

立地適正化計画に基づく居住誘導区域内で土砂災害対策を検討

居住誘導区域



透過型砂防堰堤の設置



流木捕捉機能を追加

○移転対策

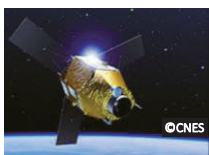
災害時に利用されるレッド区域内の避難所について安全な他施設への代替を促進

○施設整備

避難、移転対策のみでは効率的に被害を減少させることが困難な箇所への対策

○紀伊山系における大規模土砂災害対策(国直轄)

○砂防指定地の管理適正化・監視のDX推進



衛星画像を活用した土地改変行為の監視

○盛土等への対策

盛土等に伴う災害を防止するため、宅地造成及び特定盛土等規制法に基づく規制区域指定等に向けた調査

令和5年度予算案 5,473百万円 [債務負担行為 1,597百万円]

令和4年度2月補正予算案 1,947百万円

(24) 日本一災害に強い奈良県を目指す対策

ここまで良くなってきました

令和元年に「奈良県緊急防災大綱」を策定し、防災・減災対策を行ってきました。

- 全ての防災重点ため池でハザードマップの作成を完了し、市町村の防災対策に活用
- 直近の自然災害の課題等を踏まえ、R5年2月に「奈良県地域防災計画」を修正
既存の4箇所の広域防災拠点に加え、新たに5箇所を追加指定

現行	県営競輪場(県)、第二浄化センター(県)、消防学校(県)、吉野川浄化センター(県)
追加	大規模広域防災拠点(県)、奈良市都祁生涯スポーツセンター(奈良市)、宇陀市総合体育館(宇陀市)、昴の郷(十津川村)、下北山スポーツ公園(下北山村)

市町村等が行う避難対策に対する支援を行ってきました。

- 市町村の避難所運営マニュアル策定等への支援や「女性視点の防災ハンドブック」を作成、配付
- 37市町村で社会福祉協議会と災害ボランティアセンター設置にかかる協定を締結、災害ボランティアセンター運営マニュアルも36市町村が策定
- 自主防災組織の実施する防災訓練の支援や自主防災活動に関するアドバイザーを派遣



アドバイザーによる訓練指導

もっと良くするために

令和2年度に策定した「第2期奈良県国土強靱化地域計画」に基づき、防災・減災、国土強靱化の取組を進めます。

- 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」や「緊急浚渫推進事業債」等を有効に活用した計画的・重点的な防災対策



道路斜面の崩壊対策



しゅんせつ
河川の浚渫を実施(堆積土砂撤去)

県の災害対応力の向上に努めます。

- 広域防災拠点の追加指定と運用の検討
- 大規模災害への対応力強化に向けた訓練
- 消防団、自主防災組織等による地域防災力の向上



令和4年度
総合防災訓練

いざという時の避難行動に万全を期します。

- 市町村と連携し、命を守るための正しい避難行動の周知啓発などの取組を継続的に実施
- 災害ボランティア活動の取組を強化
- 自主防災組織の防災訓練の支援やアドバイザーの派遣を継続して実施
- 市町村が行う避難行動要支援者の個別避難計画作成等への支援
- 備蓄物資の県内各地への分散化

他地域での被災地支援も積極的に行います。

- 自然災害が発生した際、情報収集や避難所運営業務等を支援するため、被災地へ職員派遣

消防防災ヘリコプターを更新します。

- 機体の老朽化に対応し、より安全で効果的な救助活動等を実施

令和5年度予算案 41,775百万円

[債務負担行為 15,371百万円]

令和4年度2月補正予算案 9,405百万円

7. 「きれいな奈良県」づくり

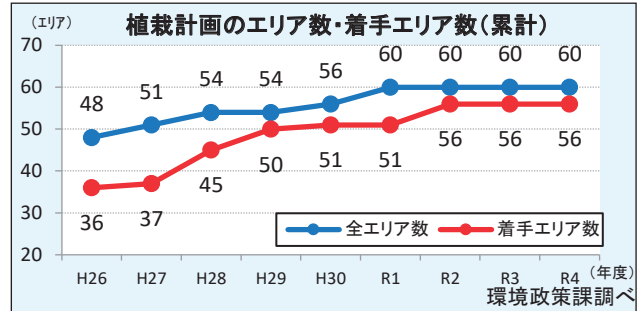
(25) なら四季彩の庭づくりの推進

ここまで良くなってきました

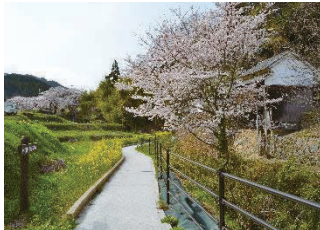
奈良県植栽計画(平成25年度策定)による取組を、「なら四季彩の庭」づくりの理念に沿って推進してきた結果、策定時から登録エリア数・着手电りア数ともに増加しています。

「なら四季彩の庭」作庭方針

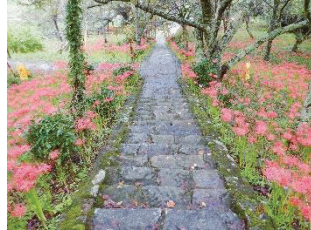
- ・県全体で調和のとれた「一つの庭」づくり
- ・地域の景観資産を生かした庭づくり
- ・四季折々の彩りの庭づくり
- ・人が楽しむ庭づくり
- ・連携・協働による持続的な庭づくり



登録、着手电りアが増加してきた結果、美しい植栽景観を楽しめる箇所も増えています。



葛城エリア(竹内遊歩道)



室生エリア(佛隆寺)



王寺エリア(明神山)



馬見丘陵公園エリア

もっと良くするために

奈良県を「一つの庭」と見立てた、四季折々の彩りを愉しむ庭づくりに取り組みます。

場所類型に沿った庭づくりを検討し、「なら四季彩の庭」づくりを推進します。

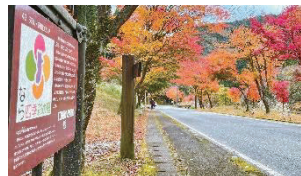
- 条例化の検討(課題整理等)
- 場所類型別エリア事業の計画策定、実施体制の構築・運営(協働モデルの創出等)

〔場所類型別の推進方策〕

場所類型	主な推進方策
森林・山岳	眺望景観の確保、視点場・散策道整備、環境保全
里山・田園	耕作放棄地・竹林等の適正管理、散策景観確保
歴史文化遺産	場の履歴を反映する四季の彩り、視点場の整備
水辺	親水空間の創出、水辺の彩り、環境保全
まち	街路樹・花壇・サイン等の整備、駅周辺等の彩り
人が集う場所	四季の彩り(花の群植)、アメニティー施設の整備

「なら四季彩の庭」づくりを全県的な運動として普及・啓発します。

- プレート設置・ジャーナル 発行・SNS等による広報
- 協定締結団体や地元活動団体の拡充活動支援



プレートの設置(天川村)



技術的支援(アドバイザーの派遣)



公式Instagramの活用



実践活動支援(花苗等の支給)

引き続き、エリア責任課長(庭師)による庭づくりを推進します。

令和5年度予算案 1,231百万円

(26) 馬見丘陵公園を誇らしい花の公園に整備

ここまで良くなってきました

馬見丘陵公園では、季節ごとに花をテーマにしたイベントを開催するとともに、来園者に園内を快適に利用いただけるよう休憩施設の整備を進めています。また、公園を広く知っていただけるよう様々な媒体での情報発信に取り組んでいます。

○やまと花ごよみイベントを開催



○休憩所を整備

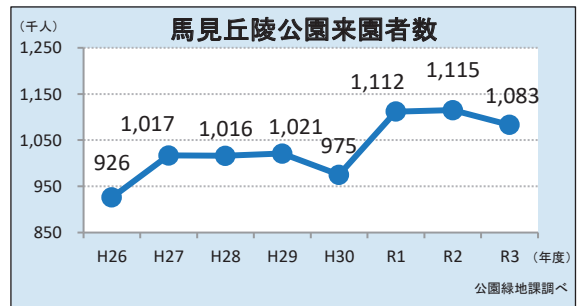


花の道 休憩施設

○情報発信



Official YouTube チャンネル



もっと良くするために

来園者により楽しんでいただけるよう、**景観・フотスポット**を各エリアに整備します。



ナガレ山古墳



カリヨンの丘



墳観橋から見たカリヨンの丘

楽しく移動できる空間の充実を図ります。

ゆっくり滞在できる空間の充実を図ります。

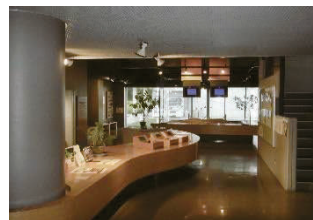
○園内の移動を支援 ○池部駅から北エリアまでの区間に「花街道」を創出 ○馬見丘陵公園館の内装改修を検討



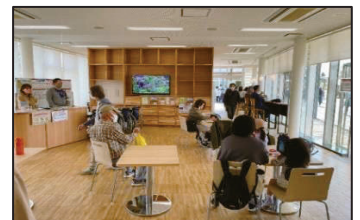
電動カート



花街道



現在の馬見丘陵公園館



花見茶屋内装改修(R3年度完成)

季節ごとのイベントを実施します。

○引き続き、やまと花ごよみイベントを開催

令和5年度予算案 224百万円 [債務負担行為 9百万円]

(27) きれいな川づくり

ここまで良くなってきました

○きれいな川辺づくり、遊歩環境の改善

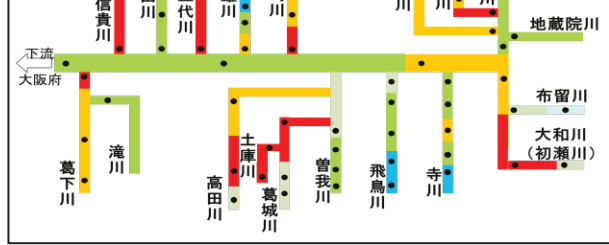
川は開放的な空間であるとともに、豊かな景観を構成する要素であることから、**景観の維持・向上**とともに、**水辺に親しめる親水空間の整備**が求められています。

○大和川とその支川のきれい化

市町村と連携し、**地域住民等の主体的な参加・協力**を得ながら、**大和川の水質改善、きれいな水辺空間づくり**を進めてきました。

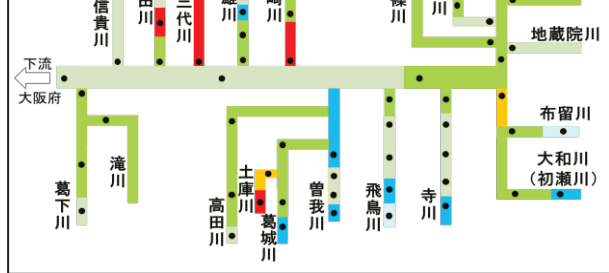
大和川の水質は、下水道の整備等により改善傾向(BOD値 4.7mg/L→ 2.5mg/L)にあるものの、他府県の河川に比べて低位

大和川水質マップ (H22年度)



※BOD値: 生物化学的酸素要求量。微生物が水中の有機物を分解したときに消費する酸素量のこと。河川の水質汚濁の指標

大和川水質マップ (R3年度)



もっと良くするために

水質のきれい化、川辺のきれい化に向け、「(仮称)大和川流域におけるきれいな川づくり会議」を開催し、情報共有や地域活動の一層の活性化を図ります。

きれいな川辺づくり・遊歩環境の改善

○水辺に親しめる親水空間の整備や適切な維持管理を推進

- [主な取組]
- ・水辺の遊歩道整備
 - ・親水施設や花壇等整備
 - ・適切な維持管理



遊歩道整備

川のゴミを削減し、きれい化

○地域の人々と協働した情報発信や活動、河川美化のための施策をさらに推進

- [主な取組]
- ・定期的な巡視活動や啓発看板設置
 - ・プラスチックごみ実態の周知・啓発、事業者へ指導・広報
 - ・大和川一斉清掃等のイベント



吉野川 マナーアップキャンペーン

大和川とその支川の水のきれい化

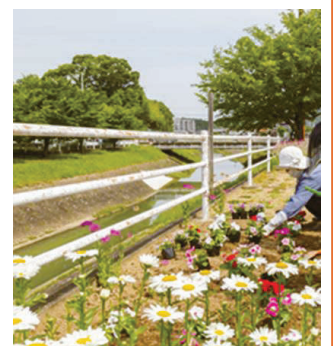
○地域の人々と協働した情報発信や実践活動の促進

○水質向上、家庭・事業者の啓発を推進

- [主な取組]
- ・実践活動団体のネットワーク化促進
 - ・水質改善のための普及啓発・実践活動促進
 - ・導水水量確保による河川環境改善
 - ・花の植栽活動、除草、清掃等の活動支援
 - ・合併処理浄化槽設置補助する市町村助成
 - ・下水道接続促進員による戸別訪問実施の市町村支援



奈良県スタイルジャーナル (年4回発行)



彩り花づつみプログラム

令和5年度予算案 2,842百万円
[債務負担行為 140百万円]

(28) 道路の無電柱化

ここまで良くなりました

「奈良県無電柱化推進計画」に基づき、地震等の災害時の交通確保、まちづくり、良好な景観形成や観光振興等の観点から無電柱化を進めています。

- 計画に基づき、約19kmの電線共同溝事業に着手
- これまで約6.3kmで工事に着手し、そのうち約3.5kmが完了

【電線共同溝工事が完了した箇所】

(都) 畝傍駅前通り線(橿原市)



整備前



整備後

今後、電線類を地中化・抜柱予定

【電線類地中化の事例】

橿原神宮東口停車場飛鳥線(明日香村)



整備前



整備後

R3年に電線類を地中化・抜柱

もっと良くするために

引き続き、**無電柱化を強力**に進めます。

防災

- 緊急輸送道路や避難所へのアクセス道、避難路等災害の被害の拡大の防止を図るために必要な道路の無電柱化を推進

国道168号(王寺町・香芝市)
国道308号(奈良市・四条大路付近)
(都)西九条佐保線(奈良市)
(都)大安寺柏木線(奈良市)
(都)奈良橿原線(奈良市・JR奈良駅前)

- 新たに約14kmの電線共同溝事業に着手

国道168号(生駒市)
中和幹線(香芝市)
大和郡山広陵線、大和郡山環状線(大和郡山市)



(都) 奈良橿原線整備前



整備後

今後、電線類を地中化・抜柱予定

県と市町村とのまちづくり

- 各地区におけるまちづくりを進める上で、必要な取組として無電柱化を推進

三輪山線(桜井市・大神神社参道周辺)
(都)畝傍駅前通り線(橿原市・JR畝傍駅付近)
(都)城廻り線(大和郡山市)



三輪山線整備前



整備後イメージ

令和5年度予算案 419百万円 [債務負担行為 220百万円]
令和4年度2月補正予算案 420百万円